

目指す学校像	○希望の登校 ○笑顔の活動 ○満足の下校	【未来創造プロジェクト】●心豊かな生徒(ゆたかに) ●自ら学ぶ生徒(かしこく) ●自己実現を目指す生徒(たくましく) 【学校経営方針】 凡事徹底とレベルアップ 【目指す生徒像】 未来に希望をもち、自ら人生を切り拓く生徒
--------	----------------------------	---

重点目標	1 学力の定着・向上を目指した授業の工夫・改善 2 信頼関係に立った生徒指導の充実と、きめ細やかな指導とおした心豊かな生徒の育成 3 安全・安心で心潤う教育環境づくり 4 保護者や地域等との連携協力の推進
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価		年度目標		年度評価		学校運営協議会による評価		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度		
1	<p>【学力向上に関する取組】 (現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○日々の授業で、タブレットを活用し課題解決のための調べ学習や、調べたことの整理やまとめ、プレゼンテーションを行うことに意欲的に取り組む生徒が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に数学の「数学的な見方や考え方」や「図形」「資料の活用」、国語の「読解力」に関する設問について、結果の二極化傾向が見られる。 ○家庭学習の習慣が十分に身に付いていない生徒や先を見通した計画的な学習を苦手とする生徒がやや多い。 ○教職員全員が、授業や家庭学習における学力向上のために効果的なタブレット活用を模索している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の学び合い、教え合いの時間の確保 生徒がわくわくする授業の提供 学びの自律化や個別最適化、教員の授業改善に向けた情報端末の活用 	<p>集団で学べる価値を全教職員で共有するとともに、タブレットの効果的な活用を模索し、できるところから随時実行していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> GIGAスクール構想で整備されたタブレットを有効活用し、学習の理解度を高める。数学の「数学的な見方や考え方」についての習得・探求はもちろん、全教科において学力向上を目指すため、できる教科や学年から随時取組を始める。 ①授業において、Teams内のパワーポイントに、個人の考えや班での話合いで練った意見を全員タブレットに送り、共通理解を図る。授業の導入では、Kahoot!やQuizletを活用し授業の道義付けを、授業のまとめでは、ミライシードを使い、個人の考えやわかったことを教員に送信する。また、ミライシードの理解度を入力し、学びの足跡にする。 ②家庭学習の充実や学びの自律を図るために、クラスのTeams内に授業の復習として、今日学習したことに関する授業で使ったパワーポイントの掲載や関連するスタディ・サブリの動画や関連問題の掲載を行う。 ③クラスのTeamsには、生徒が明日の教科連絡やクラスメートへの呼びかけ、教員からの宿題(例、予習資料を読む、複数の資料を見ながら、課題に対する予想をたてる等)を掲載する。時には、小学校で学習した内容の動画視聴や問題演習を行わせるなど、個別最適化の学びを充実させる。 ④集団で学ぶことの意義を教職員や生徒に自覚させ、授業中は教え合い、学び合いの時間を多くとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価生徒アンケート「授業規律と落ち着いた授業」「授業のわかりやすさ」の各項目について肯定的な回答が、「授業規律」が82%、「授業のわかりやすさ」が90%以上になることができた。 ○学力調査の分析結果について校内研修等で、授業改善や具体的手立てを明確にし、授業実践することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの「授業規律と落ち着いた授業環境」の肯定的意見は、83%と昨年の74%に比べかなり上昇した。このことは、教員一人ひとりが「学びの指標」を意識し、学習環境づくりを徹底した姿勢が伺える。また、「授業がわかりやすい」の項目に対し、94%が肯定的な回答であった。授業のわかりやすさと主体的な学びを確保するために、一人一台のタブレットを授業の中で効果的に活用できていると考える。①Teams内のパワーポイントに、個人の考えや班での話合いで練った意見を全員タブレットに送り、共通理解を図った。②Teams内では、ミライシードを使い、個人の考えやわかったことを教員に送信し、学びの蓄積にした。また、各クラスのTeams内に、今日学習したことに関する授業で使ったパワーポイントの掲載、関連するスタディサブリの動画や関連問題の掲載を行う等の、個別最適化の学びを充実させたことが挙げられる。このことは、今年度の全国学力・学習状況調査の本校の課題、「根拠を明確にしたうえで自分の言葉で説明できる力」をはぐくむ取組であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業日数が来年度、205日から202日になるため、自学自習の充実がさらに求められる。本校では、家庭学習の習慣が十分に身に付いていない生徒や先を見通した計画的な学習を苦手とする生徒が多い。タブレットを有効活用した取組を一層図る。 ・学校では、集団での学びに特化し、個で出来る予習では、スタディーサブリの小学校の動画や教諭の説明動画、課題に対する予想立て、復習では、動画と関連問題を解けるよう各クラスのTeamsを充実させる。 ・教員間にタブレット活用程度の差があるので、教科の特性を生かしたタブレットの有効活用について、研究・実践する。 	<p>学校運営協議会による評価</p> <p>実施日令和7年2月20日</p> <p>学校運営協議会からの意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会アンケートで「授業規律が保たれ、生徒の力を伸ばす授業が行われている」に学校運営協議会全員が肯定的な回答であった。 ・タブレットを活用した授業を見て、授業スタイルの変化や全員の生徒の積極的な変化に驚いていた。 ・タブレット活用の取組は素晴らしいが、ノート紙を使い場面等の、教育的効果考えたバランスを取った授業を来年度も続けてほしい。
2	<p>【安全・安心に関する取組】 (現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全国、市平均を上回っている。 ○心に不安を抱えている生徒が多くみられ、個々に応じたケアが必要である。 ○生徒主体の安全教育に重点を置き、生徒が常に安全な生活のための様々な活動に取り組んでいるため、災害や危険行為や危険場所に対する意識が高まっている。 (課題) ○コロナ制限は無くなったものの、思春期特有の不安や不透明感からくるストレス等、生徒が抱える悩みが尽きないことから、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○教職員による施設設備の安全点検を確実に行うだけでなく、生徒が自ら危険を予測したり、回避したりする力をさらに育てていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒生活の安心・安全な生活の確保 生活の安全・安心な生活の確保 生活の安全・安心な生活の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事等、あらゆる場面で生徒の活躍の場を設定し、できたことを大いに褒めた。生徒の自己指導能力の育成を第一に考え、 ①全クラス担任・副担任が生徒の信頼自己や信頼他者を高めるための方策を考え、具体策をもって日々の学年・学級経営に当たる。 ②Sola ルームを整備し、教室に入れない生徒の毎日の学びの保証をする。そらルームの使用ルールや人的配置等、スムーズに室を運営できるようプロデュースを行う。 ③スクールダッシュボードの蓄積データ等、タブレット端末を活用して生徒指導や教育相談部会、生徒との面談等の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。ICTにより、蓄積した情報を基に生徒の状況を細やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1月の心と生活のアンケート、全校生徒の信頼自己が高い生徒(ABC判定)の生徒数が90%以上となることができるか。 ○学校自己評価に係る生徒アンケート「穏やかな雰囲気(心)で学校生活が送れている」の肯定的な回答の割合が85%以上、A評価45%以上となるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1月の心と生活のアンケート、全校生徒の信頼自己が高い生徒(ABC判定)の割合は94.8%であり(1月の調査)、9月に比べても1.1%上昇している。また、「穏やかな雰囲気(心)で学校生活が送れている」の質問に対し、87%の生徒が肯定的な回答でA評価52%であった。このことは、全クラスで、授業や行事等、あらゆる場面で生徒の活躍の場を設定し、できたことを大いに褒めたたえることを第一に考え、実践している表れたと考える。また、全教員の人事評価シートに生徒の信頼自己や信頼他者を高めるための方策を記入させ、具体策をもって日々の学年や学級経営に当たらせ、一人ひとりを大切にしながらクラスや作りを組織的に進めたと考える。 ・教室に入れない生徒のため、Sola ルームでの学習保障とソーシャルスキルトレーニングを行い、13名の生徒に学習と心の教育を施した。さらに、全教職員で学習や生活面で困り感のある生徒を見つけ、4月以降8名の生徒を校内就学支援委員室を経て、通級指導教室につなげた。困り感の解消に向けてのスキルアップで、生徒指導上のトラブルが減ってきている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼他者が高い生徒の割合(ABC判定)の割合は81.1%であり(1月の調査)、来年度はこの数値にもこだわっていく。行事等を効果的に活用し、クラスの一体感を創出するなど、信頼他者を高める取組も併せて行う。 ・スクールダッシュボードのさらなる充実を図り、タブレット端末を活用して生徒指導や教育相談部会、生徒との面談等の記録を蓄積し、生徒一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。蓄積した情報を基に生徒の状況を細やかに把握分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。 ・Teamsには、生徒が明日の教科連絡や級友への呼びかけ等も行っており、心を通わせるツールにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会アンケートで「思いやりのある心豊かな生徒の育成に努めている」「生徒の安全確保に努め、また潤いのある環境が整備されている」の項目で、学校運営協議会全員が肯定的な回答をしていた。 ・不登校生徒数が一定のことにに対し、心配の声が上がり、学校運営協議会でも民生児童委員や主任児童委員と協力し見守っていく必要があるとの意見が出た。
3	<p>【開かれた学校に関する取組】 (現状) ○昨年度も、学校運営協議会での話し合いの内容を確実に実行し、地域や家庭と一体となった数々の取組を行うことができた。地域の方々の本校への愛着の深さを常日頃から感じている。今年度は、開校70周年を迎え、学校運営に携わってきた先人に畏敬の念を表すとともに、各行事に70周年の冠をつけ、皆でお祝いの企画や運営を行っている。運営協議会では、常に、自ら課題を見出し、協働して解決し、さらに生徒を地域全体で育てていくことを確認している。 (課題) ○今年度も、昨年度の実践を生かし、さらに多くの地域の方々のプロジェクト参加を促していきたい。より一層、学校・家庭・地域が一体となった実践を熟慮し、決定・実行していく。望ましい生徒の姿や学校に期待することを、家庭・地域・企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域ぐるみでの育成の具体策の発案と実践 生徒自らの地元の社会を築く実践 地域ぐるみでの育成の具体策の発案と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールを更に進め、地域に根差し、地域とともに成長する学校にしていきたい。昨年度までの取組を一層充実させる。 ①安心・安全の町づくりに向けて、生徒が積極的に地域に目をつける活動を行う。A 地域の清掃活動 B 夏祭りを中心とした地域の避難場所運営訓練において生徒による AED の普及活動 C 地域防災・安全の視点に立った未来くるワーク体験 ②開校70周年記念式典に向けた、生徒が考案した歌詞を歌手の石井あけみさんのプロデュースで記念ソングを創り上げるとともに、地域や保護者の協力のもと生徒が歴史と伝統を理解し地域に感謝の持てる式典にする。 ③学校運営協議会で熟慮し、校内に学校・地域交流センターを立ち上げる。 ④小・中4校の生徒・児童本部会を開催し、地域をよりよくするため、小・中学生が力を合わせてできることを決定し、地域と協力しながら子ども達の意見を具現化する。 ⑤地域の自治会やコミュニティの要請に応じた、中学生ボランティアを組織的に制度化し、中学生が幅広くボランティアで汗を流せるような素地を多様化する。 ⑥部活動の地域移行化の流れを受け、中学生のスポーツ活動の多様化を推進する。ため、現状ある競技以外に地域で新しい種目を立ち上げる。A 本校を基盤に中央区の4校から募集する女子サッカーチームを作り、部活動の地域移行化の第一歩とする。B 平日の昼間に施設を地域の方々に開放し、生涯スポーツの一助となる。 ⑦学校行事等について、学校に関わる人々がオンラインで参観できるように整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員アンケートで、「地域の方々と接する機会を多く持ち活動ができたか」の項目に対し、肯定的意見が90%以上になることができた。 ○学校評価保護者アンケート「自然災害等緊急時の対応を適切に行い、生徒の安全確保に努めている」の項目に対し、80%の肯定的な回答、A評価20%以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価教職員アンケートで、「地域の方々と接する機会を多く持ち活動ができたか」の項目に対し、肯定的意見は98%であったが、保護者アンケート「保護者や地域の協力による教育活動の推進」の項目に対し、肯定的意見が83%、A評価が23%で少々目標に至らなかった。しかし、今年度も生徒が地域の方々と触れ合い、教えるをう機会を多く持った。生徒が様々な活動で地域に目が向くようになった結果、学校教育に保護者や地域のかかわりが密になっていることが伺える。 ・具体的には、地域や小学校のPTAとの協働による地域防災パトロール、地域の清掃活動、100名以上が参加した夏祭りの中学生神輿、地域の小学校主催の挨拶運動・お祭りイベントへのボランティア参加等、積極的に行った。また、創立70周年記念の式典を生徒会役員を中心とする生徒主体で創り上げ、生徒が考案した歌詞をもとに石井明美さんによる記念ソングが完成し、応援ソングとして生徒に歌い継がれるようになった。生徒の発案で、パルン・リズやパルン・リズ・イン・ミネーション、与野西歴史博物館を皮切りに、学校・地域交流センターの活用が始まっている。 ・本校の様子を保護者に届けるために、HPに与野西レポートとして掲載している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とのかかわりをさらに深めるため、地域の自治会やコミュニティの要請に応じた、中学生ボランティアを組織的に制度化し、今年度以上に、中学生が幅広くボランティアで汗を流せるようになる。また、自治会長や民生委員・主任児童委員等との会合を開催し、情報交換を行う。 ・学校・地域交流センターの有効活用のための規約を策定し、必要とする地域の団体に幅広く門戸を開放する。 ・学校施設を地域の方々に活用していただけるよう検討を始める。(例、昼間のデニスコート利用) ・部活動の地域移行化の流れを受け、地域から積極的に指導者を招聘するとともに、中学生のスポーツ活動の多様化を推進する。例、本校を基盤に中央区の4校から募集する女子サッカーチームの指導を乞う。 ・学校行事等について、学校に関わる人々がオンラインで参観できるように整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会アンケートで保護者と地域が連携し、地域ぐるみで生徒の健全育成に努めているの項目で、協議会委員全員が肯定的な回答をしていた。 ・部活動の地域移行に向けて、地域としても協力をお願いしたい旨の発言があった。 ・来学期新設の「地域ふれあいルーム」の使用の仕方について数々の意見が出された。○案内板の設置も立ち入り禁止区域やトイレの指定○スリッパの色を変える○活動記録の提出業務○生徒とのふれあいの場としてほしい(生徒との意見交換会の開催)
4	<p>【教職員の資質向上に関する取組】 (現状) ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○アクティブ・ラーニング型授業の実施について、定着が図られてきた。 (課題) ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。教職員全員が、授業で効果的にICT活用が図れるよう、研修が必要である。 ○多様な学習形態(家庭学習、オンライン学習)・学習形態(個別学習、探究型学習)の指導目標(基礎基本の定着、学び続ける力の育成)とICTの活用について効果的な関連性が教職員の中で定まっていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教職員一人ひとりが、キャリアアップできる環境を整備 生徒とともに教職員も自己実現が図れる職場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体で組織的に、教職員の授業内容やICTの活用能力の資質・スキルの向上に取り組むために、 ①全教職員が、タブレット端末の効果的な活用方法や多様な生徒に対応した教科指導の実現に向けて、定期的な校内研修で模索し、全教職員で実践する。校内研修や校内有志勉強会(ICTカフェ等)で、Teamsの課題配信をはじめ、Kahoot!やQuizlet、Canva等が活用できること、エバンジェリストを中心に教え合い学び合いを行う。 ②教職員がお互い授業を見合い、「学びの指標」のチェック項目に照らし合わせ、タブレットの効果的な活用や学び合いの視点を確認した助言を行い、個々の授業スキルアップを図る。 ③教職員が、キャリアパスポートに基づいたスキルを明確化し、自己評価シートにスキルアップ・キャリアアップ項目を明記し、実行する。 ④全教職員が勤務時間外4.5時間以内になるよう、自分自身の仕事の見直しやマネジメントに責任を持つ。 ⑤日々の欠席連絡はもとより、学校だより、学年だより等のデジタル配信が行えるアプリの導入を行い、三者面談の予約等のMicrosoft Bookingの活用、情報共有でTeamsを積極的に活用を繰り返し実践することで、事務仕事の効率を図り、浮いた時間を授業準備に充てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員による学びの指標アンケート1学期の全教員の平均値3.27ポイントを0.2ポイント上昇できた。 ○教職員アンケート「キャリアアップが図れ、生徒に還元できた」の項目に対し、肯定的な回答が、90%を超えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による学びの指標アンケートの2学期の3.49ポイントで1学期に比べて0.22ポイント上昇した。このことは、課題解決学習を重視した授業が増え、本時の課題の明確化や学び合いの充実等、また、生徒のICT活用が効果的であったこと、教職員がICTを適確に使いこなせていることが挙げられる。教職員のICTスキルが向上した理由は、校内研修や校内有志勉強会(ICTカフェ等)で、Teamsの課題配信をはじめ、Kahoot!やQuizlet、Canva等が活用できること、エバンジェリストを中心に教え合い学び合いによりスキルを習得できたことが考えられる。 ・教職員アンケート「キャリアアップが図れ、生徒に還元できた」の項目に対し肯定的な回答は、95%であった。当初面談で、キャリアパスポートに基づいたスキルを明確化し、全教職員が自己評価シートにスキルアップ・キャリアアップ項目を明記させ、年3回の人事評価面談で、達成状況や進捗状況を確認した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の授業の質の向上のため、来年度は、教員同士の見取り授業を組織的に計画する。 ・業務改善のため、三者面談の予約にMicrosoft Bookingを活用したり、情報共有でTeamsを積極的に活用したり等、引き続き、ICT活用を模索し、実行に移す。 ・さらに、学ブリを導入し、日々の欠席連絡はもとより、学校だより、学年だより等のデジタル配信を行う。 ・教職員の働き方のメリハリをつけるために、勤務時間内に、会議や生徒指導等、組織でいう仕事を終了させる。 ・計画性を積極的に奨励し、教職員も多様な経験を積み生徒に還元できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が自分の授業を良くしようと、授業のアンケートを取って学校全体として組織的に検証しているところが素晴らしい。引き続き、引き続き行っていく。 ・働き方改革が叫ばれている中、教職員が時間外に自分のスキルアップのために、校内有志勉強会(ICTカフェ等)を行っていることは素晴らしい。

